

**岩手県立博物館**  
**令和4年度指定管理業務の内部評価表**  
**(令和5年4月26日)**

岩手県立博物館は、岩手県の誇る豊かな自然及び文化史に関する資料や情報の収集保管を行い、調査研究を通して資料価値を見出し、その成果を展示や教育普及などの諸事業で公開する全県的な機関であり、本県の教育・芸術・文化の振興と発展に大きく貢献してきた。

公益財団法人岩手県文化振興事業団は、岩手県が平成18年度から導入した、当館施設・設備の管理業務、入館料徴収業務等を受託する指定管理者として、学芸業務部門の職員と一体になり、新たな地域文化の創造を目指して様々な特色ある活動を展開している。

第5期指定期間の最終年度となる令和4年度、当事業団では県民のニーズに応え、県民とともに歩む博物館を目指して業務を推進してきた。

この度、1年間の取り組みを振り返り、業務の更なる改善に繋げるため、以下のとおり内部評価を行ったものである。

私たちは、この内部評価のみならず広く県民をはじめとする外部の意見を求め、それを改善の「糧」としながら、新たな地域文化の創造に向けて今後とも取り組むこととしている。

※ なお、「岩手県立博物館の新型コロナウイルスへの対応について」は、「令和4年度岩手県立博物館年報」の関係記載を参考までに添付する。

## 1 利用促進への取り組み（展示活動・教育普及活動等事業）

### (1) 展示活動

利用者に親しまれる常設展示とするため、随時、展示替え等による内容の充実を図るとともに、県民を惹きつける次の特別展を開催し、貴重かつ多彩な資料等の公開と鑑賞の機会を提供した。

- ① 企画展「赤色に宿るチカラ」
- ② テーマ展「金田一家収蔵資料展 -金田一勝定を中心に-」
- ③ 〃 「水辺の生きもの」
- ④ 〃 「新収蔵・新指定展Ⅰ(文化史系)-2018～2021年度新コレクション-」
- ⑤ 〃 「新収蔵・新指定展Ⅱ(自然史系)-2018～2021年度新コレクション-」
- ⑥ 共催展「地質情報展2023 いわて -明日につなぐ大地の知恵-」

### (2) 教育普及活動

博物館の収蔵資料、施設を活用して「文化講演会」「県博日曜講座」「岩手の歴史講座」「考古学セミナー」を定期的で開催し、利用促進に努めたほか、地質観察会や自然観察会等を継続開催して教育普及活動に努めている。

また、学校教育との連携では、博物館利用を通じての学習支援、教材用資料の貸出、学校5日制対応事業の展開など博学連携にも積極的に取り組んだ。

### (3) 文化財レスキュー活動

平成23年4月以降、東日本大震災により被災した博物館資料の救出と再生を図るため、県教育委員会と連携して救援活動を行っている。

令和4年度も継続して、陸前高田市の被災資料の安定化処理及び抜本修復業務等を行った。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
		※評価基準⇒	A：高い成果が得られている B：一定の成果が得られている C：想定成果には足りない D：所定の成果が得られていない			
継	総利用者数 55,000人	4年度（3年度） 43,368人（36,951人）			○	
	入館者数 40,000人	4年度（3年度） 31,617人（28,292人）			○	
	教育普及活動参加者数 15,000人	4年度（3年度） 11,751人（8,659人）			○	
	ホームページ閲覧件数 500,000件	4年度（3年度） 把握不能（把握不能）				
	入館者・職員対応・企画展入館者・講座参加者・子ども向け事業参加者等満足度 95%	4年度（3年度） 98.1%（96.4%）	○			
続	常設展示及び関連行事	常設展示では、長期の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などに合せた展示のため、24回のトピック展、19回の展示替えを実施した。 学芸員による定時解説会（8回：延べ154名）、解説員による依頼解説（69件：延べ1,259名）を通じて、展示に関する情報を観覧者に提供した。		○		
	特別展示及び関連行事等	令和4年度の特別展示は、企画展「赤色に宿るチカラ」（入館者9,606人）、テーマ展として「金田一家収蔵資料展 -金田一勝定を中心に-」（同3,855人）、「水辺の生きもの」（同7,059人）、「新収蔵・新指定展Ⅰ（文化史系）-2018～2021年度新コレクション-」（同3,376人）、「新収蔵・新指定展Ⅱ（自然史系）-2018～2021年度新コレクション-」（R5.3.16～3.31、同889人）、共催展「地質情報展 2023 いわて -明日につながる大地の知恵-」（入館者792人）を開催した。 また、各開催期間中には関連の展示解説会や講演会、講座等を開催したほか、こども向けイベント「赤いものクイズ」を実施し、好評であった。	○			

継 続	体験型事業	<p>体験学習室は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、入室人数の制限、土日や祝日の閉鎖等の対応とした期間があった。</p> <p>「たいけん教室 みんなでためそう!」（日曜日開催：参加者数 737 人）、「チャレンジ!はくぶつかん」（土・日曜日開催：参加者数 2,377 人）、「県博バックヤードツアー」（参加者数 11 人）等を開催した。</p>	○			
	観察会、講演会、講座等	<p>特別展示関連の講演や講座、観察会など中止や縮小開催となった事業もあるが、実施した事業については、参加者の好評を得られた。</p>	○			
	学校教育支援事業	<p>学校からの要請に応じて、学芸員が授業を支援する「出前講座」などを実施した。</p> <p>また、教材用の資料貸出しにも随時対応し、学校教育を効果的に支援するよう努めた。</p> <p>本事業の学校現場への一層の周知を図り、博物館利用の促進に繋げていきたい。</p>		○		
	学校週 5 日制対応事業	<p>「ミュージアムシアター」（人数制限）や「チャレンジ博物館」を実施し、参加者から好評を得た。</p>		○		
	博物館実習事業	<p>学芸員資格取得希望者 6 名を対象に、博物館実習指導を行った。</p>	○			

## 2 もてる資源の活用への取り組み（県民の参加機会の拡大）

当館の施設は、館主催事業はもとより、博物館友の会や関連研究団体等により活用されている。さらに県民への利用開放を一層促進し、「身近で活力のある博物館」を目指している。

また、四十四田公園の活用については、関係機関等との連携を図りながら対応し、博物館と地域との連携を深める。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	博物館屋内施設の活用・開放	<p>岩手山の写真撮影の場としてグランドホールのベランダを開放した。また、講堂や教室は、博物館事業のほか、博物館友の会や文化財愛護協会、関連の研究団体等でも有効活用した。</p>		○		
	博物館屋外施設の活用・開放	<p>古民家や芝生広場は、年間を通じて、博物館を訪れた幼稚園児や小学生等の昼食、レクリエーション等に活用された。</p>		○		
	岩手山眺望等の活用	<p>グランドホールからの岩手山の眺望を博物館の展示物と捉えて説明パネルを設置し、来館者から好評を得ている。</p> <p>事業団の自主事業として、「写真コンテスト」をテーマ「私の岩手山」で開催し、多くの応募をいただいた。また、作品展示も好評だった。</p>		○		

四十四田公園の活用に係る連携	博物館の植物園・岩石園の整備・充実を図るとともに、四十四田公園利用者の館利用を更に図っていくことが必要である。			○	
----------------	---	--	--	---	--

### 3 また来たいと感じてもらえる時間と空間の提供への取り組み

竣工から 43 年経過した当館は、空調設備や給排水設備、電気設備はもとより、建物本体の老朽化が進行している。

その中で事故ゼロを目標に管理業務を継続し、令和 4 年度においても大きなトラブルの発生もなく館活動を推進できたことは、全職員が主体的に危険箇所等の把握に努め、当該箇所の改修や改善に速やかに対応するなど、絶対に事故を起こしてはならないとの意識を持って取り組んだ成果と考えている。

また、清掃や警備、設備管理そして植栽管理の再委託業者と密接な連携のもと、適切な管理に努め、清潔で快適な環境の維持に努めている。

令和 4 年度においては、県工事（屋上防水改修工事、外構タイル改修工事）のほか、限られた予算を有効に活用し、自動制御機器（電動二方弁）修繕、高圧盤カムスイッチ交換、蛍光灯器具修繕等を行い、安全で快適な環境整備に努めた。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継  続	利用者満足度の向上	職員の巡回による不具合の早期発見と速やかな対応により安全性の確保に努めるとともに、適切な空調管理・照明と清掃の徹底による清潔で快適な館内環境維持を行った。		○		
	「ひとにやさしい」施設・設備の整備と職員の対応	職員は、高齢者等に十分に配慮した対応を行った。	○			
		車椅子やベビーカー、休憩用椅子の配置など、利用者サービスの向上に努めた。	○			
		駐車場の利用は、状況に応じて来館者の便に供するため弾力的な対応を行った。	○			
		施設・設備の改修を県に要望し、適切な維持管理に努めた。			○	
	学校教育との連携	教育普及活動に関する広報や講演活動のほか、多くの幼稚園・保育所、小・中・高等学校・支援学校等の学習に博物館を利用いただいている（R4 利用状況：92 校 2,916 人）。また、教材の貸出しについても相談に応じながら対応している。 「いわはく子ども新聞」を作成配付し、行事などを PR して効果を上げている。		○		
ホームページ・SNS 発信の充実	施設案内、交通案内、展示・イベント案内等の博物館情報を提供した。 新型コロナウイルス感染防止に係る館の取組状況や事業の中止・変更等について、随時発信を行った。		○			
メディアとの連携	報道機関に随時情報提供を行い、館事業の県民への周知を図った。また、マスコミからの取材協力依頼等には、積極的に対応した。		○			

#### 4 文化振興事業団の自主事業の実施

博物館の利用促進のため、自主事業を積極的に実施し、利用者の増加を図った。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	ミュージアムショップの運営	館刊行図録類及び博物館関連グッズ類の頒布とともに、子どもに人気のカプセルトイの充実に努める等、利用者サービスの充実に図った。		○		
	ナイトミュージアム	夏休み期間中に小中学生を対象として、普段見ることができない夜の博物館の魅力を知ってもらうための期間限定の特別イベントを実施した。	○			
	ゴールデンウィークスペシャル	ゴールデンウィーク期間中に全世代を対象として、スペシャルイベントを予定～中止。				
	博物館まつり	コロナの感染状況を踏まえ、予定していた博物館まつりの開催を中止し、実施日を分散して各部門のイベントを開催した。		○		
	ミュージアムコンサート	幼児からを対象にして、音楽を通じて多様な文化活動を提供。松園シルバーダックスによる合唱コンサートを開催した。	○			
	クラシックカーミーティング	自動車文化に対する県民の理解の促進と、幅広い世代の来館を促すため、博物館の機能を生かして開催予定～中止。				

#### 5 利用者ニーズの把握、サービス向上への取り組み

来館者アンケート調査の実施、ご意見箱の設置、受付職員の記録カードや解説員業務日誌などにより把握した利用者からの意見・要望等は、「意見要望対応処理システム」を構築し、対応策や措置状況などについて館内での情報共有を図るとともに、可能な限り速やかに対応した。

主な取り組みとしては、展示資料やキャプション等、展示室に係る意見や要望に随時対応し、利用案内を充実させた。

ミュージアムショップでは、従来の商品に加えて特別展関連商品やオリジナル商品などを取り揃え、利用者に提供した。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	利用者等の意見・提案を受け止める多様な窓口の設置	展示や施設設備、職員の対応、博物館に期待すること等について、アンケート調査を実施するとともに、解説員業務日誌や再委託業者からの報告書等を通じて意見や提案の把握に努めた。また、これらの意見等を館内で共有し運営に反映させることで、サービスの充実に繋げた。		○		
	業務品質向上への取り組み	業務評価会議や事業実績評価シートによる検証、職員提案などを通じて、事業や業務の改善に取り組んだ。		○		

文化財等資料の燻蒸サービス	県内の博物館等を対象に収蔵資料の燻蒸サービスを実施し、貴重な資料の適切な保存管理に協力した。	○			
休館日等	ゴールデンウィーク、夏休み期間の月曜（休館予定）日は臨時開館し、利用者サービスの向上に努めた（計4日間）。		○		
利用者等からのクレーム対応・意見要望対応処理システムによる情報共有と進行管理	意見・要望には速やかに対応するよう努め、サービスの向上を図った。また、電話での質問等には、懇切丁寧に対応するよう心掛けた。 館内ネットワークに共有フォルダーを置き、意見や要望など具体の事例への対応策と措置状況を記載することとし、情報の共有と活用を図った。		○		
職員研修の充実	特別展示ごとに解説員展示研修を実施したほか、職員の能力向上を図るよう、専門研修の受講等を積極的に進めた。		○		

## 6 適切で安定的、経済的、環境に配慮した施設管理運営への取り組み

資料の劣化防止のため展示室、収蔵庫内の温湿度管理や、効率的な施設管理運営による経費節減と環境に配慮した取り組みを継続するとともに、危機管理対策として防災訓練を実施した。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	収蔵資料や施設・設備の適正な管理	資料の劣化を防止するため、展示室や収蔵庫内の温湿度管理を適切に行った。		○		
	経済的で効率的な施設管理運営による経費節減と環境への配慮	重油等燃料の使用量節減と節電や節水に努めた。また、両面印刷や裏紙利用など用紙使用量の節減と再生紙使用の徹底、環境配慮型の消耗品等の購入、ゴミの分別の徹底及びリサイクル率の向上を図った。		○		
	アウトソーシングの推進	警備・清掃等の業務再委託契約は、指定管理期間（5年度）のうち当初3年間を契約期間とする複数年度契約を導入し、経費の節減と円滑且つ効率的な施設管理運営に努めた。		○		
	学芸業務部門と指定管理部門との連携	利用者の意見や要望などに対応するため、学芸業務部門との連携・協力による効率的な運営により、サービス向上に努めた。		○		
	利用案内	来館者一人ひとりの状況に合わせた対応とともに、施設案内パンフレットを作成配付し、分かり易い案内を行った。		○		

	利用相談への対応	団体・学校からの利用相談には、学芸部門の職員と一体となって、親切且つ的確に対応するよう努め、サービスの向上に繋げた。		○		
--	----------	--	--	---	--	--

## 7 広報、営業活動の強化への取り組み

館のホームページによりタイムリーな情報を発信し、ツイッター等SNSを活用したイベント情報の発信に努めた。

博物館の展示活動や各種事業は来館者から高い評価を得ており、更に多くの方に利用してもらうため、限られた予算ながら広報効果が高いマスコミを通じた展示活動や行事の告知を行った。

新聞等マスコミやタウン情報誌への投稿や取材要請を行ったほか、毎月のイベントガイドによるマスコミ各社への情報発信、また、県の広報媒体や広報事業の活用及び教育記者クラブへの情報提供を行った。

教育現場を対象とする広報活動については、県内全小・中・高等学校に「博物館利用の手引き」を送付し、随時メールにより館の情報を発信したほか、県教育委員会主催会議等の場を借りたPR等、あらゆる機会を活用して博物館全体の広報宣伝活動を行った。

更に、博物館近隣町内会組織を介してイベントガイド等を全戸配布・回覧し、地域住民との連携と利用促進を図る取組や、地域振興・観光関係の各機関と連携して誘客促進に向けた取組を行った。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	効果的な広報展開	ポスター、リーフレット、「博物館だより」、子ども向け行事案内等を作成し配布した。	○			
		教育記者クラブへの情報提供を随時行うとともに、当番制で新聞への「ミュージアム・レポート」を執筆し、積極的に広報活動を行った。		○		
		利用者の利便性を一層高めるため、ホームページのお知らせ欄や内容を随時更新することで、最新の情報発信に努めた。 ツイッター、フェイスブックを活用し、即時的で臨場感ある情報発信に努めた。		○		
		県広報誌「いわてグラフ」、県政テレビ・ラジオ番組を活用した広報活動を行った。		○		
		市町村広報誌の活用及び他の文化・教育施設（機関）との相互PRを行った。		○		

		広報資料配布先の新規開拓や博物館友の会との連携による広報、サービスコーナーを活用した来館者への広報などに取り組んだ。		○		
	地域や関係団体との連携強化と広報活動	地域への広報を継続するとともに、友の会などの関係団体と事業やイベントの開催、広報活動に関する相互協力を行った。		○		
	学校教育との連携強化と館利用の促進	学校長会議等の関連会議、教員向け説明会での博物館利用のPRや、「博物館利用の手引」や「いわはくこども新聞」の配付などを行った。		○		

## 8 危機管理、情報管理、社会貢献活動への取組み

関係法令及び事業団の規程等の定めに基づき、防災訓練を年2回実施するとともに、入館料等の現金に係る事故防止には、博物館現金取扱マニュアルに基づき、組織として適正な処理に継続して取り組んだ。

博物館における各種作業及び事業実施に当たっての留意事項と災害や事故等が起きた場合の事後対応等をまとめた「安全作業管理マニュアル」を更新し、基本対応指針としている。

また、博物館利用者及び職員の個人情報の収集、取得及び保護管理などに、慎重、安全且つ適切に対応した。

	評価項目（目標）	内 容	内部評価			
			A	B	C	D
継 続	危機管理対策	来館者の安全を図るため施設設備の日常点検等を行い、危険個所の把握と早期対応に努めた。また、全職員参加による防災訓練を2回実施し、非常事態における対応方法の定着を図ったほか、「安全作業管理マニュアル」を更新した。		○		
		適正な事務処理の指針となるマニュアルをもとに、入館料等現金の取扱い等事故防止の徹底を図った。		○		
	個人情報の保護管理、取扱いに関する取り組み、改善	博物館利用者及び職員の個人情報の保護管理や取扱いは、関係法令及び事業団の規程に基づき安全かつ適切に対応し処理した。		○		
	社会貢献活動	小中高や大学生等の職場体験、館園実習などの受入れ、くん燻サービスの広い受入れなど、様々な取組みを行った。	○			